

Present for You —

2014 年度 新収蔵作品展

わたしからあなたへ／みんなから未来へ

2015 年 1 月 6 日(火)～2 月 15 日(日)



3 クロード・メラン「聖顔」1649年 エングレーヴィング

1987年4月の開館以来、当館は版画を中心とするユニークな美術館として、国内外のすぐれた版画作品と資料を収集・保存し、版画をテーマとする展覧会を開催してきました。収蔵品は現在、27,000点を越えています。「版画」という明確なテーマに基づいたコレクションは、他に類を見ない独自で貴重なものとなっていると自負しています。近年はその活動実績を評価していただき、寄贈作品の数も増加しています。

「*Present for You* — 2014 年度 新収蔵作品展 わたしからあなたへ／みんなから未来へ」とは、当館に収蔵される作品が、貴重な文化遺産として大切に保管され、未来へと伝えるべきものであり、同時に市民ひとりひとりから未来へのプレゼントでもあるという気持ちをこめたタイトルです。本展では2014年に新たに当館に収蔵された3,291点の作品のなかから、主な作品86点をご紹介します。本展を通じて、当館の活動がさまざまな人々によって支えられ、市民ひとりひとりも美術館のサポーターであるということをご理解いただければ幸いです。

当館は今後も、古今東西の版画の歴史が多面的・総合的に理解できる質の高いコレクションの形成を目指して、継続して収集活動につとめていきたいと考えています。

最後になりましたが、貴重な作品や資料をご寄贈くださいました皆様、収集活動にご協力くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。

2015年1月

町田市立国際版画美術館

※データは次の順で記載しています。

作者名、生没年、解説、出品番号、題名、制作年、技法、寸法(mm)

※作家名(ローマ字)については、姓を大文字で表記しています。

シモン・ヴーエ (1590-1649)

Simon VOUET

17 世紀フランスを代表する画家のひとり。ヴーエの絵画作品をもとに数多くの版画が制作され、彼自身が版画の原版の商業的使用を管理していました。No.1 の版刻者ドリニーはヴーエの弟子で、晩年はフランス王立絵画彫刻アカデミーの教壇に立ちました。No.2 の版刻者トルテバはヴーエの娘と結婚、義理の息子となっています。

1 牢獄から救出されるペテロ

版刻: ミシェル・ドリニー(1617-1665)

Michel DORIGNY

1638 年 エッチング 326 × 202 mm

2 萬意画

版刻: フランソワ・トルテバ(1616-1690)

François TORTEBAT

1664 年 エッチング 257 × 155 mm

阿部浩氏より寄贈

クロード・メラン (1598-1688)

Claude MELLAN

No.1、2 のヴーエに学んだ版画家・画家。「聖顔」は十字架の道行の途中、聖ヴェロニカがキリストの顔を拭った布に彼の顔が浮かび上がったという伝説に由来します。近づいてよくご覧ください。鼻を始点とする一本の旋回する刻線と、その肥瘦によってすべてが表現されていることがわかります。このようにメランは交差線をできるだけ使わないで、量感や質感を表わすことを試みた版画家でした。「聖顔」はその極致ともいべき作品です。

3 聖顔

1649 年 エングレーヴィング 435 × 323 mm

購入

ジュゼッペ・ガッリ・ダ・ビビエーナ (1695-1757)

Giuseppe GALLI DA BIBIENA

ヨーロッパの舞台美術や建築に多大な影響を及ぼしたイタリア出自のビビエーナ族のひとり。ヨーロッパ各地の劇場建築や舞台美術に携わると同時に、舞台背景のデザインも数多く残しています。ビビエーナ族の舞台背景は、対角線方向に広がる構図や角度を強調した透視図法を特徴とします。出品作ではジュゼッペの想像による古代建築やオペリスクも相まって、幻想的な空間が構築されています。

4 カンピドリオ・アンティオ

版刻: アンブロージョ・オリオ(1737-1825)

Ambrogio ORIO

18 世紀後半 エッチング 300 × 470 mm

購入

フランシスコ・デ・ゴヤ(1746-1828)

Francisco de GOYA

スペイン独立戦争を描いたゴヤ『戦争の惨禍』には、最終的に版画集に入れられなかった作品3点が知られ、これはそのうちの1点。老農夫の前に現れた女神。かたわらには羊と、中味がぎっしりつまった籠が置かれています。農夫はスペインを表し、太陽のように輝き、胸をはだけた女神が豊穡を示すことから、戦後のスペインが豊かな国に生まれかわるさまを示すと解釈されます。しかし未来への希望を表したこの作品は実際には用いられず、『戦争の惨禍』は第79図で真実の女神が息絶え、第80図の「彼女は生き返るだろうか?」という問いで終わられています。

5 これが真理だ

1814-15 年頃 エッチング、アクアチント、

ドライポイント、ビュラン、バニツシャー

175 × 215 mm

購入



5 これが真理だ

『狐のライネッケ』

ヨーロッパ中世に起源をもつ、嘘つきで悪賢い狐を主人公とする物語。出品作は19世紀ドイツで出版された挿絵本です。No.6の原画を描いたリヒターは、ドレスデンの美術アカデミーの教授をつとめた画家・版画家で、3000点近い挿絵の原画を手がけました。No.7はゲーテが翻案したものです。原画作者のカウルバッハは、ミュンヘンで美術アカデミーの長をつとめた当時の同地を代表する画家。リヒターと同じく、数多くの挿絵原画を描いています。

ルートヴィヒ・リヒター(1803-1884)

Ludwig RICHTER

6 『狐のライネッケ』

ゴットハルト・オスヴァルト・マールバッハ編

出版地:ライプツィヒ 1840年刊 木版 181×122mm

ヴィルヘルム・フォン・カウルバッハ(1805-1874)

Wilhelm von KAULBACH

7 『狐のライネッケ』

ゲーテ

出版地:ミュンヘン 1846年刊 エッチング

340×285mm

購入

西洋民衆版画

人々の生活に根ざした版画で、種々のものが制作されています。No.8は本来4枚続きで、暖炉を飾るためのものと考えられています。No.9には様々な職業、

No.10には諺が表わされており、型紙を使った彩色が施されています。No.11は民衆版画の代表的な生産地であるフランスのエピナールで刷られたもの。切り取って組み立てると立体的な乗り物や建物が完成する、今でも子供向けの雑誌の付録などによく見られるタイプのおもちゃ絵です。

8 騎兵

版刻:ゴダール・ピエール=フランソワ

Godard PIERRE-FRANÇOIS

版元:カンブレー、ユール・ジャン=フランソワ=ヨゼフ

(1803-17年活動)

Hurez JEAN-FRANÇOIS-JOSEPH; Cambrai

1810/14年 木版、手彩色(型紙) 簀の目紙

2点ともに約297×379mm

9 コマ割り絵

版元:スカルベーク、M.ヘメレールス・ファン・ハウテル

(1827-1894年活動)

M. HEMELEERS-VAN HOUTER; Schaerbeek

19世紀 木版、手彩色(型紙) 機械製紙

370×310mm

10 諺

版元:スカルベーク、M.ヘメレールス・ファン・ハウテル

(1827-1894年活動)

M. HEMELEERS-VAN HOUTER; Schaerbeek

19世紀 木版、手彩色(型紙) 機械製紙

390×330mm

11 組立絵 7点

20世紀初頭 リトグラフ、手彩色

出版地:エピナール

11-1

大判組立絵 No.553 ハンマー

370×495mm(紙)

11-2

中判組立絵 No.921 飛行船<パリ市号>

293×400mm(紙)

11-3

中判組立絵 No.1092 列車アメリカン・エクスプレス

296 × 401 mm(紙)

※3 枚組の内の1枚

11-4

小判組立絵 No.1230 衛兵所

230 × 300 mm(紙)

11-5

小判組立絵 No.1247 アラブの幕屋

228 × 300 mm(紙)

11-6

小判組立絵 No.1268 インドの王宮

233 × 295 mm(紙)

11-7

小判組立絵 No.1272 カンボジアのモスク

231 × 301 mm(紙)

購入

ベルナール・ビュフェ (1928-1999)

Bernard BUFFET

ベルナール・ビュフェはフランスの美術家です。パリに生まれ、国立高等芸術学校で絵画を学びました。多感な時期をナチス・ドイツ占領下のパリで過ごした彼の心に深く刻まれた虚無感、その独自の表現を生み出すきっかけとなりました。弱冠 19 歳のときにパリ国立近代美術館によって作品を買い上げられる栄誉を獲得し、その翌年には「新人賞・批評家賞」を受賞、リトグラフの制作は 1952 年、24 歳のときから始めました。

『アルバム・パリ』、『アルバム・ニューヨーク』は、ともに 10 点ずつのシリーズ作品です。ビュフェの目線とらえた壮大な風景は、鋭く重苦しい黒の描線で表現されています。

12 『アルバム・パリ』よりサクレ・クール

1962 年 リトグラフ 675mm × 535mm

13 『アルバム・ニューヨーク』より 2 点

1964 年 リトグラフ

683mm × 490mm / 683mm × 490mm

青井忠雄氏より寄贈

《格登鄂拉斫営図(ゲデン・オーラ設営図)》

(『準回両部平定得勝図』全 16 葉の内)

『準回両部平定得勝図』全 16 葉は中国の乾隆帝がイエズス会宣教師ジュゼッペ・カスティリオーネ(郎世寧)らに命じて下絵を描かせ、フランスで当代の優れた彫版師たちの手により版刻され刷られたもの。完成後、原版も刷りも中国に輸送されており、本作品がどの時期の後刷りなのかは今のところ明らかではありません。原画を描いたイグナティウス・ジツヘルバルトはカスティリオーネに学んだイエズス会士、版刻したブノワ・ルイ・プレヴォは 18 世紀のパリで活躍した職人的銅版画家でした。

14 格登鄂拉斫営図(ゲデン・オーラ設営図)

原画: イグナティウス・ジツヘルバルト(1708-80)

Ignatius SICHELBARth

版刻: ブノワ・ルイ・プレヴォ (c.1735-1804/09?)

Benoit Louis PRÉVOST

エッチング、エングレーヴィング 415 × 925mm

大谷芳久氏より寄贈

小野忠重旧蔵和本コレクション

版画家、小野忠重(1909-1990)は、仏教版画から創作版画までの日本の版画をはじめ、中国や西洋、あらゆる分野の版画に関心を持った研究者でもありました。小野は研究のために種々の版画、版本を集めており、その収集対象のひとつが和本でした。

今年度、当館には小野忠重旧蔵の和本コレクション 2,534 点が寄贈されました。小野忠重著『本の美術史—奈良絵本から草双紙紙まで』(河出書房新社、1978 年)にその収集、研究の成果が反映されているとおり、和本の系譜を辿ることのできる貴重なコレク

ションです。今回はその中から、画譜、地誌、合巻をご紹介します。

◆小野忠重旧蔵和本コレクション—画譜

画譜は、人物・花鳥・山水といった図様の手本や画論を収録した絵画制作の手引書です。当初は中国から輸入された『芥子園画伝』などが用いられますが、江戸時代以降、日本の絵師たちによって独自に編纂されるようになりました。南蘋派の絵師、宋紫石はヨンストン『動物図譜』などから図様を引き写した『古今画藪』を制作し、また中村芳中は尾形光琳の画風を用いて人物や花鳥を図案化した『光琳画譜』を出版しました。葛飾北斎の『北斎漫画』は、森羅万象、様々なモチーフが描き尽くされた絵手本で、河鍋暁斎の『暁斎画談』は、暁斎の技法や画論がふんだんに盛り込まれた美術書です。これらの画譜は、江戸時代以降、絵師たちの重要なイメージソースとして大いに活用されました。

宋紫石(1715-1786)

SOU Shiseki

15 『古今画藪 後八種』 雑體、奇品

明和 7-8 年(1770-71) 墨摺(一部彩色摺)絵本
各 268 × 169mm

中村芳中(?-1819)

NAKAMURA Hochu

16 『光琳画譜』 乾、坤

享和 2 年(1802) 彩色摺絵本 各 259 × 187mm

葛飾北斎(1760-1849)

KATSUSHIKA Hokusai

17 『北斎漫画』 十二編

天保 5 年(1834) 墨摺絵本 227 × 156mm

河鍋暁斎(1831-1889)

KAWANABE Kyosai

18 『暁斎画談』 内篇卷之上、卷之下

明治 20 年(1887) 彩色摺絵本 各 250 × 175mm

◆小野忠重旧蔵和本コレクション—地誌

『東海道中膝栗毛』からも知られるように、江戸時代には庶民の間で物見遊山が流行しました。その主な目的は寺社への参詣でしたが、道中で宿駅に泊まり、名所を見物し、名物を食することが彼らの楽しみでした。そうした旅行への興味の高まりから、各地の名所を紹介するガイドブックのような地誌の出版が相次ぎました。ここでは、江戸のランドマークを歌川広重の挿図で紹介する『絵本江戸土産』と『江都近郊名勝一覽』、また紀伊や摂津の風土、名跡を網羅的に掲載する名所図会を展示します。

さらに、人々の興味は遠い海外にまで及びます。日本国内の実用的な地誌とは逆に、空想を交えながら「異国」の風俗を描いた『海外人物輯』や『絵本異国一覽』もあわせてお楽しみください。

歌川広重(1797-1858)画

UTAGAWA Hiroshige

19 『絵本江戸土産』 七編

松亭金水(1795-1863)作

SHOTEI Kinsui

嘉永 3 年-慶応 3 年(1850-1867) 彩色摺絵本

181 × 117mm

20 『江都近郊名勝一覽』

松亭金水作

安政 5 年(1858) 墨摺絵本 107 × 148mm

西村中和画

NISHIMURA Chuwa

21 『紀伊国名所図会』 卷之二

高市志友(1751-1823)作

TAKECHI Shiyu

文化 9 年(1812) 墨摺絵本 267 × 177mm

竹原春朝斎(?-1800)画

TAKEHARA Shunchosai

22 『摂津名所図会』 第七巻

秋里籬島作

AKISATO Rito

寛政 8 年(1796) 墨摺絵本 255 × 181mm

うたがわよしもり
歌川芳盛(1830-1884)画

UTAGAWA Yoshimori

23 『海外人物輯』 卷之下
かいがいじんぶつしゅう
ながたなんけい
永田南溪編

NAGATA Nankei

嘉永7年(1854) 彩色摺絵本 255×176mm

おかだぎよくざん
岡田玉山(1737-1812)画

OKADA Gyokuzan

24 『絵本異国一覽』 初巻、五巻
えほんいこくいちらん
しゅんこうえんはなまる
春光園花丸作

SHUNKOEN Hanamaru

寛政11年(1799) 墨摺絵本

224×157mm、227×159mm

◆小野忠重旧蔵和本コレクション—合巻

合巻は、江戸時代後期に流行した絵入りの長編小説です。上下巻の表紙を並べると、絵柄が一続きになるという仕掛けが、目にも楽しい読物です。三代歌川豊国は、ベストセラーとなった『修紫田舎源氏』をはじめ『釈迦八相倭文庫』や『犬の草紙』など数多くの合巻を世に送りました。その弟子である国芳も、『七組入子枕』で背景に垂欧堂田善の「榎坂溜池之図」を描き入れるなどだまし絵のような斬新な表紙を描いています。

うたがわとよくに
三代歌川豊国(1786-1864)画

UTAGAWA Toyokuni III

25 『修紫田舎源氏』 初編上
にせむらさきいなかげんじ
りゅうていたねひこ
柳亭種彦(1783-1842)作

RYUTEI Tanehiko

文政13年(1830) 彩色摺絵本 178×122mm

26 『釈迦八相倭文庫』 三編上・下、十一編上・下
しやかはつそうやまごぶんこ
まんていおうが
万亭応賀(1818-1890)作

MANTEI Oga

弘化3年(1846) 彩色摺絵本

各175×116mm、各179×118mm

りゅうおうたろうえいゆうものがたり
27 『龍王太郎英雄譚』 四編上・下

しきていこさんば
式亭小三馬(1812-1853)作

SHIKITEI Kosanba

嘉永元年(1848) 彩色摺絵本 各174×116mm

そのゆかりひなのおもかげ
28 『其由縁鄙俚』 三編上・下

けいさいえいせん
溪斎英泉(1791-1848)作

KEISAI Eisen

弘化5年(1848) 彩色摺絵本 各178×116mm

いぬ そうし
29 『犬の草紙』 十編上・下、八編上

りゅうていせんか
笠亭仙果(1804-1868)作

RYUTEI Senka

嘉永3年(1850) 彩色摺絵本

各179×118mm、178×117mm

うたがわくによし
歌川国芳(1798-1861)

UTAGAWA Kuniyoshi

30 『七組入子枕』 三編上・下、五編上・下、六編上

ななづくみいれこまくら
笠亭仙果作

嘉永3年(1850)、嘉永4年(1851)、嘉永5年(1852)

彩色摺絵本

各177×117mm、各176×119mm、178×118mm

小野近士氏より寄贈



30 『七組入子枕』 三編上・下

高橋由一関係資料

^{たかはしゆいち}高橋由一は、日本の近代絵画の先駆者として知られる画家です。出品資料は、小野忠重旧蔵の高橋由一に関する資料3点です。

《^{やなぎげんきちあててがみ}柳源吉宛手紙》は、由一が長男源吉に宛てて出した手紙で、「鵜飼図」の制作に際して長良川を訪れたことが記されています。由一は明治24年(1891)7月6日から8月11日まで岐阜県を訪れ鵜飼を写生し、その後「^{ながらがわうかいず}長良川鵜飼図」(明治24年、東京国立博物館蔵)を制作したことが知られています。「廿四年七月十日」の消印が捺されたこの書簡は、その岐阜旅行の早い段階で投函されたものだと思われます。また手紙と併せて、「金華山のふもとを/長良川の流るゝ也/催促をしてハ見れとも/きんかさぬ/うんといは永/気の長良川」という和歌も同封されています。

《富山県第二部土木課文書》は、由一が栃木県令^{みしまみちつね}三島通庸の委嘱により明治17年(1884)に制作した、栃木・福島・山形の新道写生石版画を、富山県土木課が購入したことを示す文書です。また、『西洋画譜』は、西洋の絵手本から手足や眼など人体の一部を鉛筆で写した画帖です。内容は、由一による唯一の図画教科書『西洋画譜 初編』と類似しており、何らかの関連があるものと思われる。

^{たかはしゆいち}高橋由一(1828-1894)

TAKAHASHI Yuichi

31 ^{やなぎげんきち}柳源吉宛手紙、戯歌、封筒

明治24年(1891)7月8日 墨、紙
158×843mm、168×112mm、178×65mm

32 富山県第二部土木課文書

高橋由一宛 明治19年(1886)10月8日
墨、紙 240×353mm

33 『西洋画譜』

鉛筆、紙 238×169mm

小野近士氏より寄贈

明治～大正期引札

新年の挨拶や得意先への配り物として発展したちらし広告「^{ひきふだ}引札」は、明治期に入り石版の技術の発達と

ともに盛んに制作されました。印刷の中心地は大阪で、古島竹二郎・徳次郎や中井徳次郎発行のものが多く残っています。見本帳から図柄を選び、商店名など文字部分は各注文主が個別に名入れしてもらう、という工程で制作されていました。

新年を寿ぐおめでたいモチーフをちりばめたもの、暦を入れて実用性を持たせたもの、いずれも派手な色づかいと賑々しいデザインが見どころです。

34 豆腐類 中田屋清吉

印刷・発行:古島竹次郎
明治34年(1901) リトグラフ 254×375mm

35 ^{うぶがわ}産川水車営業 春原留蔵

印刷・発行:古島竹次郎
明治35年(1902) リトグラフ 259×374mm

36 牛乳牛肉卸小売 小林本店小林支店

明治40年(1907) リトグラフ 259×375mm

37 浦島太郎(見本)

明治期 リトグラフ 256×383mm

38 綿類洋酒雑誌小間物 田中栄太郎

明治期 リトグラフ 247×361mm

39 下駄製造卸小売 百瀬商店

明治期 リトグラフ 257×375mm

40 和洋小間物並二袋物紙類雑貨商 井上商店

印刷・発行:野村富三郎
明治37年(1904) リトグラフ 530×368mm

41 綿糸商 八木商店名古屋支店

明治期 木版多色 334×495mm

42 紋付模様附友仙 武井染舗

印刷・発行:古島徳次郎
明治42年(1909) リトグラフ 375×517mm

相原郁生・和子氏より寄贈

日本版画協会同人自刻連作品

『東京回顧図会』

日本版画協会の同人制作の版画集。杉並区荻窪にあった高見澤木版社(日本画や油彩画、錦絵などの複製版画を多く制作)が摺りを行なって刊行されました。太平洋戦争で焦土と化した東京を目の前にし、在りし日の東京の名所を回顧して制作した木版画が収められています。一部戦前に刊行された連作版画『新東京百景』の一枚として制作されたイメージの新刷りが含まれています。

43 日本版画協会同人自刻連作品

『東京回顧図会』(15点)より

1946年発行 木版(刷り:高見澤木版本社工房)

43-1 ^{おんちこうしろう} 恩地孝四郎(1891-1955)

ONCHI Koshiro

二重橋 186×246 mm

43-2 ^{ひらつかうんいち} 平塚運一(1895-1997)

HIRATSUKA Un-ichi

赤坂離宮 181×242 mm

43-3 ^{やまくちげん} 山口源(1896-1976)

YAMAGUCHI Gen

明治神宮 181×245 mm

43-4 ^{かわかみすみお} 川上澄生(1895-1972)

KAWAKAMI Sumio

九段大鳥居 182×245 mm

43-5 ^{まえだまさお} 前田政雄(1904-1974)

MAEDA Masao

帝大赤門 185×243 mm

43-6 ^{さいとうきよし} 斉藤清(1907-1997)

SAITO Kiyoshi

浅草観音堂 185×247 mm

43-7 ^{せきのじゅんいちろう} 関野準一郎(1914-1988)

SEKINO Jun-ichiro

赤坂見附弁慶橋 180×240 mm

43-8 ^{あぜちうめたろう} 畦地梅太郎(1902-1999)

AZECHI Umetaro

泉岳寺墓所 180×242 mm

43-9 ^{まえかわせんぼん} 前川千帆(1888-1960)

MAEKAWA Senpan

新宿の夜 181×241 mm

北村哲朗氏より寄贈

ガストン・プチ (1930年生まれ)

Gaston PETIT

カナダ、ケベック州出身の聖ドミニコ渋谷カトリック教会の神父。1961年、初来日、神父をつとめる教会のほか、清泉女学院小聖堂(鎌倉)、旅の聖母教会(奈良県)などのステンドグラスを制作。また洛星修道院小聖堂(京都)をはじめとする教会礼拝堂をデザイン。1965年、東京渋谷にアトリエを構え、絵画、版画、彫刻、書などを制作、66年より73年までは日本版画協会展に出品しています。国内外の画廊のほか、伊東・池田 20世紀美術館(1978年)、渋谷区立松涛美術館(1989年)で個展を開催。70年代に、絹やテロン(ポリエステル)の代わりにカーテン生地を使って、筆で描いたような荒く厚みのある独創的なマティエールの抽象のスクリーンプリントを制作しています。

44 天使のマティエール

1970年 スクリーンプリント 894×575 mm

45 月の街角

1970年 スクリーンプリント 798×563 mm

46 思い出 — 喜び

1970年 スクリーンプリント 866×635 mm

47 カバラの組織

1970年 スクリーンプリント 805×562mm

48 偉大なるザック

1970年 スクリーンプリント 804×576mm

作家より寄贈

松野 登美子 (1934年生まれ)

MATSUNO Tomiko

神奈川県出身。武蔵野美術短期大学美術科卒業。白日会、国画会などに油彩を出品、1974(昭和49)年、神奈川県展知事賞受賞。1980(昭和55)年から版画を始め、1983(昭和58)年より春陽展に出品、新人賞・奨励賞を受賞。近年は横浜の岩崎ミュージアムでの個展を続けています。風景や身近な動植物といったモチーフを用いたエッチング作品で、繊細で丹念な制作により独自の詩的世界を創り出しています。

49 Pastral-poem

1985年 エッチング 430×320mm

50 回想(スペインの旅)

1996年 エッチング、アクアチント 600×450mm

51 異国の風(風化された岩)

2005年 エッチング、アクアチント 600×450mm

52 大気(生きる)

2006年 エッチング、アクアチント 525×450mm

作家より寄贈

しまくにいち

島 州一 (1935年生まれ)

SHIMA Ku-niichi

東京生まれ。多摩美術大学卒業。1970年代に田中角栄と周恩来の顔を一万個のさざれ石に刷って展示し、終了後に川に戻すイベントを行うなど、メディアに

よって報道された政治や社会の出来事を版(版画)に置き換えて再構成することで、ある出来事を異なる視点から考えさせる表現を試みました。また同時代に、身の回りにあるカーテンやふとん、シーツ、窓などを写真におさめ、ほぼ等寸大の布にプリントしてインスタレーションするという作品を制作しています。こうした活動によって、視覚や触覚、嗅覚などから得られる認識や感覚の一致とズレなどを再確認することを試みました。

53 新聞紙に泥のプリント

1977年 スクリーンプリント、新聞紙 812×545mm

54 蛍光灯のシャツ、黒板

1977年 スクリーンプリント、布 850×1045mm

55 ジーンズ

1974年 スクリーンプリント、布 783×798mm

個人より寄贈

おがわ かずえい

小川 一衛 (1936-2010)

OGAWA Kazuei

群馬県桐生市出身。東京藝術大学工芸科図案計画専攻を卒業。広告やデザインの仕事をしながら春陽会舞台美術部に出品を続け、1968(昭和43)年より女子美術大学でデザインを教えました。1976(昭和51)年頃から、美しい色彩の多色刷りリトグラフを中心に版画制作を始めました。さりげない日常のなかで繰り広げられる人間ドラマを、舞台のような空間の中に描き出すのが特長です。2013年3月「町田ゆかりの作家」展に12点の作品が展示されました。

56 TOWN

1977年 リトグラフ 540×540mm

57 無風地帯

1981年 リトグラフ 500×650mm

58 食卓の情景

1982年 リトグラフ 560×680mm

小川 弘子・晋氏より寄贈

ふなさか よしすけ

船坂 芳助 (1939年生まれ)

FUNASAKA Yoshisuke

岐阜県生まれ。1962年、多摩美術大学絵画科卒業。日本の伝統的な木版画の技法と、現代的なスクリーンプリントを組み合わせた作品で知られる版画家です。出品作品は、1960年代より一貫して制作され続けている「My Space and My Dimension」と題されたシリーズです。抽象的な形や色の中に、樹木やレモンといったモチーフを織り交ぜて軽快なリズム感を生み出しています。

59 My Space and My Dimension-MM24

2013年 木版、スクリーンプリント 447×299mm

60 My Space and My Dimension-MM31

2013年 木版、スクリーンプリント 446×299mm

61 My Space and My Dimension-MM15

2013年 木版、スクリーンプリント 448×298mm

62 My Space and My Dimension-MM21

2013年 木版、スクリーンプリント 448×299mm

63 My Space and My Dimension-M977

2013年 木版、スクリーンプリント 447×299mm

64 My Space and My Dimension-MM33

2013年 木版、スクリーンプリント 447×298mm

65 My Space and My Dimension-M999

2013年 木版、スクリーンプリント 447×299mm

66 My Space and My Dimension-MM2

2013年 木版、スクリーンプリント 447×299mm

須藤一郎氏より寄贈

佐藤 正明 (1941年生まれ)

SATO Masaaki

山梨県甲府市出身の美術家。1962年から66年まで甲府絵画研究所に在籍。1967年にロンドンのヘザリー美術学校に入学。1970年よりニューヨーク在住。地下鉄やリンゴを主題とした「サブウェイシリーズ」や「ビッグ・アップルシリーズ」を平面・立体作品で制作しています。出品作はアメリカの一般的な売店を描いた「ニューススタンドシリーズ」からの二点。よく見るとマグリットの作品やキリスト教の聖人が、画中の雑誌の表紙を飾っています。

67 ニューススタンド No.66-W (アートの中の聖書)

1996-99年 木版 420×406mm

68 ニューススタンド No.68-S(マグリットに捧げる)

1997-99年 セリグラフ(スクリーンプリント)

610×800mm

作家より寄贈

こばやし けいせい

小林 敬生 (1944年生まれ)

KOBAYASHI Keisei

島根県松江市生まれ。京都・インターナショナルデザイン研究所で建築家の上野伊三郎、デザイナーの上野リチの指導を受けたあと、二紀会の洋画家宮永岳彦に師事しながら、版画の制作を進めた版画家です。最初は板目木版画を制作していましたが、1975年頃から、白和崎尊夫の作品に触発されて独学で木口木版画の制作を始めています。その頃より、急激に進化する文明への危機感を表現してきました。80年代末より大画面の木口木版画こぐちもくほんがを制作、元来小サイズであったこの版種の概念を打ち破りました

69 蘇生の刻-群舞 97・3D

1997年 木口木版 880×2280mm

作家より寄贈

阿部 浩 (1946 年生まれ)

ABE Hiroshi

栃木県足利市出身の版画家。1969 年、武蔵野美術大学造形学部油画科を卒業。1972 年よりフランス留学、パリ国立高等美術学校でジョルジュ・ダイエス指導のもと、石版画を学びました。デリケートな諧調の表現が全く異なるという考えから、金属板ではなく天然の石版石にこだわった制作を続けており、2012 年には足利市立美術館と飛騨市美術館で初の回顧展が開かれました。近年はモノタイプや油彩などにも活動を広げています。同作家によって製作された石版プレス機の模型もあわせてご覧ください。

70 孤独な形

1975 年 リトグラフ(石版石) 573×418 mm

71 精神のピラミッド

1982 年 リトグラフ(石版石) 390×595 mm

72 白いかたちととぶ

1997 年 リトグラフ(石版石) 430×427 mm

73 秘儀

1997 年 リトグラフ(石版石) 341×501 mm

74 創造システム

2001 年 リトグラフ(石版石) 516×350 mm

75 内的立像 IV

2010 年 モノタイプ 620×446 mm

76 石版画関係資料

(釣竿型石版プレス機模型、プレス機模型用石版石)

作家より寄贈

る じ びん 盧 治平 (1947 年生まれ)

LU Zhiping

デザイナーから転じて版画家となった上海版画界のリーダーです。中国美術家協会版画芸術委員会副

主任、中国国家版画院研究員、上海市美術家協会常務理事などをつとめています。版画家として活動する一方で、2002 年に私費を投じて上海郊外に「半島版画工房」を開設し、市民や若手版画家に工房を開放するといった活動も展開させています。また、展覧会の企画や国際シンポジウムなども積極的に企画する版画家です。伝統とモダンが融合した、平面的でグラフィカルな造形の版画を制作しています。

77 灰色空間

2011 年 シルクスクリーン 845×645 mm

78 潤物之三—雨

2012 年 シルクスクリーン 677×612 mm

79 素品

2013 年 シルクスクリーン 515×385 mm

作家より寄贈

松本 秀一 (1946 年生まれ)

MATSUMOTO Hidekazu

愛媛県三間町(宇和島市)出身の版画家。1975 年、京都教育大学教育学部特修美術科を卒業。俳人・歌人としても活動しています。出品作は、黒一色の画面を光によって描画していくかのような技法であるメゾチントによって制作された版画集です。

80 メゾチント集『光が生まれる刻に』

装本:吉野史門 刷版:林グラフィックプレス

発行:ガリレア・グラフィカ

1994 年刊 メゾチント 書籍:524×354×46 mm

ガリレア・グラフィカより寄贈

山本 進 (1951 年生まれ)

YAMAMOTO Susumu

愛媛県出身の版画家。日和崎尊夫らの呼びかけにより 1977 年に結成された木口木版作家グループ「鑿^{のみ}

の会」のひとり。出品作は上田秋成の『雨月物語』におさめられた怪異譚^{かいいたん}をもとに描かれたものです。

81 木口木版画集『夢窓の鯉魚』^{むおう りぎよ}

発行：図書出版アンカバード

1984年刊 木口木版 書籍：305×307×40mm

ガリレア・グラフィカより寄贈

山本 容子（1952年生まれ）

YAMAMOTO Yoko

埼玉県浦和市出身の版画家。1978年、京都市立芸術大学美術学部西洋画専攻科を修了。独自の世界観をたたえた銅版画を制作。数多くの書籍の装幀や挿画、そしてステンドグラスやモザイク壁画など、幅広い活動をおこなっています。

82 『ゲーテのファウスト』

装丁：渡辺和夫

製本：大家利夫 刷版：玉虫貞夫、薬師寺章雄

発行：ガリレア・グラフィカ

2000年刊 エッチング、手彩色

書籍：524×354×46mm

ガリレア・グラフィカより寄贈

ふくだ みらん 福田 美蘭（1963年生まれ）

FUKUDA Miran

東京生まれ。1987年、東京藝術大学美術学部修士課程修了。89年、史上最年少で安井賞受賞。国内外の出来事・事件や社会問題、著作権などをテーマに、あるいは名画のなかの人物の視線の先を想像したり、ゴッホらしい作品とは如何なる作品かを思考したりして、常に意表をつく視点から制作をつづけています。

《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏^{かながわおきなみうら}》は、しばしばある作品図版の裏焼きにヒントを得て、北斎の代表作を反転した作品。《コインプリント》は紙の表面をコインでこすると絵柄が出てくるという仕掛けを版画に応用

し、こする前と後を一对とした作品。《「最後の晚餐」の修復》は、ダ・ヴィンチの《最後の晚餐》の修復前の状態と、消しゴムで消して修復後の状態が現れるという一对の作品。《2012年の雪月花》はアダチ UKIYO E 大賞で設定された「つながる」というテーマをめぐって制作した伝統木版画です。

83 富嶽三十六景 神奈川沖浪裏

1996年 オフセット 296×410mm

84 コインプリント

1999年 オフセット 351×273mm×2（2枚1組）

85 「最後の晚餐」の修復

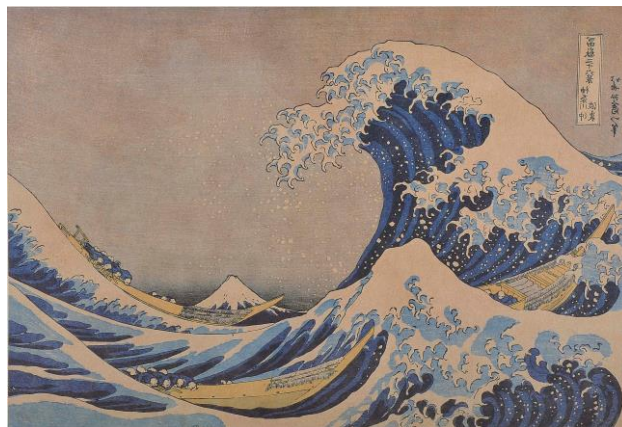
2002年 リトグラフ、鉛筆

560×760mm×2（2枚1組）

86 2012年の雪月花

2013年 木版 369×245mm

作家より寄贈



83 富嶽三十六景 神奈川沖浪裏

町田市立国際版画美術館

〒194-0013 東京都町田市原町田 4-28-1

<http://hanga-museum.jp/>

2015年1月6日発行

この冊子は3000部作成し、1部あたりの単価は40円です。（職員人件費を含みます。）